

Thamnidaceae と Mucoraceae は小孢子嚢をもつか、孢子嚢をもつかが従来分類上の重要な識別点とされていた。しかし、小孢子嚢と孢子嚢の形態的差異については必ずしも明確な定義がなく、このため、ある属たとえば *Backusella* 属や *Dicranophora* 属の分類上の帰属は論議の焦点でもあった。本論文では、孢子が分散する際に、脱落する器官を小孢子嚢、脱落しないで残存するものを孢子嚢と定義することにより *Backusella* 属を Thamnidaceae に、*Dicranophora* 属を Mucoraceae に所属させることが妥当であると結論した。

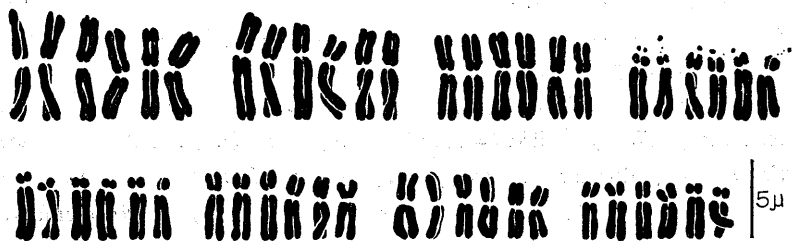
○*Knowltonia bracteata* Harv. (キンボウゲ科)の核型. (岡田 博) Hiroshi OKADA: Karyotype of *Knowltonia bracteata* Harv. (Ranunculaceae).

Knowltonia 属はキンボウゲ亜科に属し、イチリンソウ属に近縁の植物で、アフリカ南部にのみ分布している。*Knowltonia* 属の細胞学的報告は1932年に Langlet (Svensk Bot. Tidskr. 26: 391) によって行なわれただけである。この報告には写真もスケッチもなく、ただ *K. vesicatoria* は $2n=48$ で、R 型の染色体 (大型の染色体) を持つことが記されているだけで、詳細なことは何も記されていない。

今回、核型の観察に用いた *K. bracteata* は Royal Botanic Garden, Edinburgh (南アフリカ, Natal, Lion's River Dist., Dargle, Burt 氏採集) より送られた種子を発芽させたもので、根端を用いて染色体を観察した。なお観察方法、顕微鏡写真は Okada & Tamura (本号65-77頁) を参照してほしい。

染色体数は $2n=48$ であった。大きさは最大約 8μ 、最小約 4μ で、イチリンソウが $12-8\mu$ であるのに比べ、かなり小さい。図はこれらの染色体を並べたもので、大きさ、形、付随体の有無などから6本ずつの8組に分けられた。このことから、本種の基本数は $x=8$ で、その6倍体であることが推定される。この $x=8$ はイチリンソウ属の基本数 $x=7, 8$ のうちの一方と同じである。また $x=8$ をもつイチリンソウ属の核型 (Kurita 1957 Rep. Biol. Inst. Ehime Univ. 1: 1-10) と比較してみると、各組の染色体の形はよく似ている。

(大阪大学教養部生物学教室)



Knowltonia bracteata ($2n=48$) is a hexaploid of basic chromosome number, $x=8$. The basic chromosome set is similar to that of $x=8$ series of *Anemone*. $\times 2000$.